保証書　持込修理　無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書に従った使用状態で、保証期間内に故障した場合のみ無料修理いたします。
2. 保証期間内でも次の場合には有料修理となります。
   (イ)使用上の誤り、または、自己修理、分解、調整、改造などによる故障及び損傷
   (ロ)お買い上げ後の輸送、移動、落下などによる故障及び損傷
   (ハ)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害、塩害、異常電圧、水掛りなどによる故障及び損傷
   (ニ)消耗または摩耗した部品、付属品の交換
   (ホ)本書のご提示がない場合
   (ヘ)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは文字を書きかえられた場合(但し、販売店シールや領収証でも未記入項目の代用となります。)
   (ト)本品本来の用途以外に使用された場合の故障及び損傷
   (チ)一般家庭用以外(例:業務用、または業務用に準ずる使用方法)で使用された場合の故障及び損傷
3. ご贈答、ご転居などで本保証書に記入のお買い上げ販売店に修理をご依頼になれない場合は、弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
4. 本書は日本国内においてのみ有効です。 This warranty is valid only in Japan.
5. 本書は再発行いたしませんので紛失しないよう大切に保管してください。

商品名	CDラジオカセットレコーダー			★お買い上げ日：　年　月　日
型　番	RCD-590Z-W RCD-590Z-S	品　番	03-5037 03-5038	保証期間：本体1年間(お買い上げの日から)

お客様	ふりがな ★お名前　様
	★ご住所　〒　ー 電話　(　)

修理メモ

販売店	★住所　店名　電話 印

(注)★印欄に記入のない場合は無効となりますので、必ずご確認ください。

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。
※この保証書によって保証書を発行している者(保証責任者)、及びそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。
※保証期間経過後の修理についてご不明の場合は、お買い上げの販売店または弊社修理ご相談センターにお問い合わせください。
※お客様にご記入いただいた保証書の内容は、保証期間内のサービス活動及びその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がありますので、ご了承ください。

OHM 株式会社 オーム電機
〒342-8502 埼玉県吉川市旭3-8
https://www.ohm-electric.co.jp

製品に関するお問い合わせは　お客様相談室へ
●通話料無料　0120-963-006
●携帯・IP・公衆電話からは　048-992-2735
電話受付　平日9：00～17：00
※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

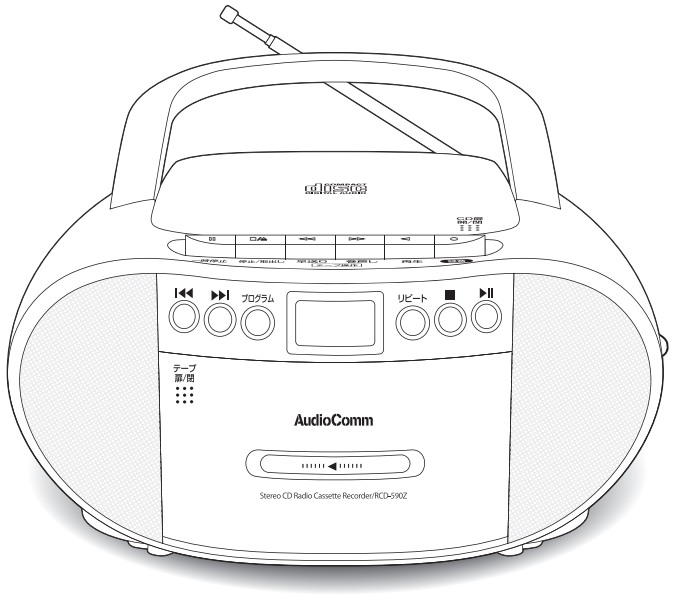
修理に関するご相談は　修理ご相談センターへ
電話受付　048-992-3970　平日9：00～17：00
※土曜・日曜・祝日及び年末年始は除きます

AudioComm®

保証書付
取扱説明書

CDラジオカセットレコーダー

型番：RCD-590Z-W　品番：03-5037
RCD-590Z-S　03-5038



このたびは、AudioComm® CDラジオカセットレコーダーをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本機の機能を充分に発揮させ、安全にお使いいただくためにも、
ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読みください。
なお、お読みになられた後は、ご使用時にいつでも見られますよう大切に保管してください。

目　次

免責事項…… 1
著作権について …… 1
安全上のご注意 …… 1～3
ご使用になる前に(CDについて)…… 4
ご使用になる前に(カセットテープについて) …… 5
各部の名称…… 6
電源について …… 7
ラジオを聴く …… 8
CDを聴く ……9～11
カセットテープを聴く …… 12
ラジオ放送をカセットテープに録音する …… 13
CDをカセットテープに録音する …… 14
外部機器を接続しスピーカーとして使う …… 15
外部機器の音をカセットテープに録音する …… 15
ヘッドホンで聴く…… 15
故障かなと思ったら …… 16
お手入れのしかた …… 17
主な仕様…… 18
保証書とアフターサービスについて …… 18
保証書…… 裏表紙

免責事項

下記の事項につきましては弊社は一切の責任を負いかねます。

- ●弊社の責任によらない製品の損傷や、破損、または改造による故障や不具合
- ●本製品によって生じたデータの消失または破損
- ●本製品のために費やした時間及び経費
- ●本製品を運用した結果もたらされた損害
- ●本製品によりもたらされた、直接的、間接的な効果及び利益の損失
- ●本製品をご使用になって生じたあらゆる結果及び、直接的、間接的なシステム、機器及びその他の異常

著作権について

放送やレコードその他の録音物(ミュージックテープ、カラオケテープ、コンパクトディスクなど)の音楽作品は、音楽の歌詞、楽曲などと同じく、著作権法により保護されています。従ってそれらから録音したものは個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

安全上のご注意

電気製品は間違った使いかたをすると火災や感電による人身事故につながる可能性があります。このような事故を防ぐために、この取扱説明書をよくお読みになり、注意事項を必ずお守りください。注意事項は、取り扱いを誤った場合に予想される事故の大きさによって3段階で表示しています。

絵表示について

この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の方への危害や財産への損害を未然に防止するためにいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから、本文をお読みください。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、火災、感電、破裂などにより死亡したり、大けがなどを負う可能性が想定される内容です。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によりけがをしたり、周辺の家財に損害を与えたりする可能性が想定される内容です。

絵表示の使用例

△	△記号は、注意(危険、警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は「感電注意」が描かれています。)
○	○記号は、禁止の行為であることを告げるものです。(左図の場合は「分解禁止」が描かれています。)
●	●記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。(左図の場合は「電源プラグをコンセントから抜く」が描かれています。)

⚠ 警告

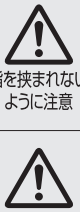
コンセントから抜く	**万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常を感知したら、すぐに本機の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜く** ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●煙が出なくなるのを確認して販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。	水かけ禁止	**本機を水のかかる場所や湿気のある場所で使わない** ●感電や故障の原因となります。
	万一、内部に異物や水などが入った場合は、電源プラグをコンセントから抜く ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。	分解禁止	**本機を分解、修理、改造しない** ●火災・感電の原因となります。
接続場所を選ぶ	**電源プラグはすぐに手が届く位置にある家庭用コンセントに接続し、異常が発生した場合は速やかに電源プラグをコンセントから抜く** ●手が届きにくい場所にあると、異常があったときに対応が遅れるおそれがあります。 ●本機の電源を切っただけでは、完全に電力を遮断できません。	禁止	**表示された電源電圧交流100ボルト以外の電圧で使用しない** ●火災・感電の原因となります。
接触禁止	**雷が鳴り始めたら、安全のため本機及び電源コードに触れない** ●感電の原因となります。		**狭い場所や壁に押し付けるなど、通気が妨げられる場所に設置しない。また、本機に新聞紙やテーブルクロス、カーテンなどをかけて通気口をふさがない** ●火災の原因となります。
乾電池に注意	**乾電池は幼児の手の届かないところへ置く。本機から乾電池を取り外した場合は、小さなお子様が誤って飲み込むことがないようにする** ●万一、お子様が飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談してください。		**本機の上に花瓶などの水が入った物を置かない** ●火災・感電の原因となります。
使用を中止する	**電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)、使用を中止する** ●そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。 ●販売店または弊社お客様相談室までご連絡ください。		**電源コードを敷物などで覆わない** ●気づかず重い物を載せてしまい、火災・感電の原因となります。
			指定された電源電圧(交流100V)以外で使用しない。自動車・船舶などの直流DC電源には接続しない ●火災・感電・故障の原因となります。 ●接続する前に指定の電源電圧に適合しているかもう一度確かめてください。
			電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない ●電源コードが破損して火災・感電の原因となります。
			本機や電源コードの上に重い物を載せたり、電源コードの上に本機を載せない ●電源コードに傷がついて、火災・感電の原因となります。
			本機の上に、例えば火のついたロウソクなど、火災の原因となるような物を置かない

⚠ 注意

コンセントから抜く

旅行などで長期間本機を使わないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜き、乾電池も取り外す
●火災・液もれの原因となることがあります。

お手入れの際や移動させるときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く
●電源コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。


指を挟まれないように注意

お子様がCD扉やテープ扉内に手を入れないように注意する
●けがの原因となることがあります。

乾電池の極性に注意

乾電池は、極性表示(プラス⊕とマイナス⊖の向き)に注意し、表示どおり正しく入れる
●間違えると乾電池の破裂、液もれにより火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

掃除をする

電源プラグとコンセントの接続部を定期的に掃除する
●電源プラグとコンセントの間にほこりがたまると自然発火(トラッキング現象)を起こすことが知られています。年に数回、定期的に接続部のほこりを取り除いてください。梅雨期前が効果的です。

音量に注意

電源を入れる前に音量を抑える。また使用中も音量を上げすぎない
●大きな音量で長時間続けて聴くと、周囲の迷惑になったり、聴力に悪い影響を与えることがあります。

ヘッドホン使用時は音量を上げすぎない
●耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

アンテナを縮める

持ち運ぶときは、アンテナを縮める
●伸ばしたまま運ぶとアンテナが引っ掛かったり、当たったりなどして、けがの原因になることがあります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
●感電の原因となることがあります。

禁止

調理台や浴室、加湿器のそばなど、湯煙や湿気が当たるような場所に置かない
●火災・感電の原因となることがあります。

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など、異常に温度が高くなる場所に放置しない
●キャビネットや部品に悪い影響を与え、故障の原因となることがあります。

電源コードを熱器具に近づけない
●電源コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

ほこりの多い場所に置かない
●火災・感電の原因となることがあります。

ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かない
●落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない
●電源コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
●必ずプラグを持って抜いてください。

指定以外の乾電池や使用推奨期限を過ぎた乾電池は使用しない。また、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わない
●乾電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

CDプレーヤーのピックアップレンズをのぞき込まない
●レーザー光が目に当たると視力障害を起こすおそれがあります。

電磁波を発生させる機器(携帯電話、テレビ、モニターなど)に近づけない
●電磁波によりお互いの機器が干渉し、ノイズや混信の原因となります。

ご使用になる前に(CDについて)

●本機は通常の音楽CDのほか、CD-R、CD-RWディスクの再生に対応しています。

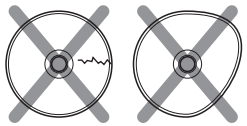
●ディスクに右のマークが入ったものをご使用ください。

ご注意

●CD-R/RWディスク、レコーダー、書き込みソフトウェアの種類、状態によっては、再生できなかったり、ノイズ、音飛びが生じる場合があります。
●ファイナライズ処理のなされていないディスクは再生できません。
●本機ではMP3やWMAなど、圧縮されたフォーマットの音楽ディスクの再生はできません。
●DualDisc(デュアルディスク)については、コンパクトディスク(CD)規格に準拠していないため、動作・音質を保証できません。
●現在発売されている「コピーコントロールCD」と呼ばれる著作権保護技術付音楽ディスクは、コンパクトディスク(CD)規格に準拠しない特殊ディスクであり、本製品における再生にあたりましては、動作や音質の保証は致しかねます。音楽ディスクパッケージの表示をよくお読みください。なお、「コピーコントロールCD」の詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

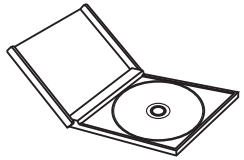
CD取り扱い上のご注意

●ひびやそりのあるディスクは絶対に使わないでください。

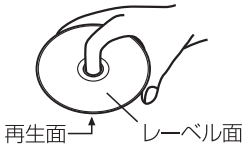


●再生面はもちろん、レーベル面にも紙やテープなどを貼らないでください。

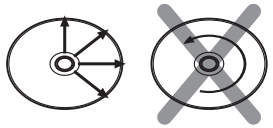
●長時間使用しないときは、本機から取り出し、ケースに入れて保管してください。



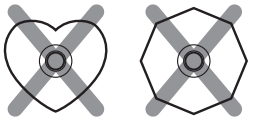
●再生面を触れないように持ってください。



●信号面(虹色に光っている面)を傷つけたり、指紋などが付かないように持ってください。指紋や汚れが付いたときは、柔らかい布などで中心から放射状に軽く拭き取ってください。



●ハート型や八角形などの特殊形状のディスクは使用しないでください。機器の故障の原因となります。



結露について

寒いところから急に暖かいところに移動させると、レンズに水滴がついたり、くもったりする結露現象が起こります。この状態でご使用になると、正しく動作しないことがあります。このようなときはディスクを取り出して、数分間放置してください。結露が取り除かれて正常に動作するようになります。

ご使用になる前に(カセットテープについて)

本機で使用できるカセットテープ

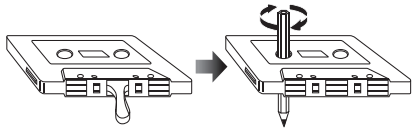
○ C-60(再生／録音時間が60分)以内の
ノーマルテープ(TypeI)をお使いください。

× ハイポジションテープ(TypeII)
メタルテープ(TypeIV)
エンドレステープ
C-90以上のノーマルテープ

●ハイポジションテープ(TypeII)やメタルテープ(TypeIV)、エンドレステープは使えません。
●ノーマルテープの場合でも、C-90以上の長時間テープは通常のカセットテープに比べて非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれるなどのトラブルの原因になりますので使わないでください。

カセットテープを聴く前の準備

●テープのたるみは、テープの巻きつきや切断の原因になります。
●テープがたるんでいないかどうか確かめ、たるんでいる場合は図のように鉛筆などで必ず直してからご使用ください。
●テープの損傷を避けるため、大切なテープやオリジナルテープは必ずダビングし、ダビングしたものをお使いください。



カセットテープを操作するときのご注意

●**再生中に早送り／巻戻しをするときや、早送り／巻戻しから再生に戻るときなど、テープが動いているときは、必ず停止／取出しボタンでテープ動作をいったん停止させてから、次の操作を行なってください。**
テープのからまりや故障、破損の原因となります。
●**再生／録音状態のまま電源を切らないでください。**
テープが回転部分に密着したままになるので、からまりや巻きつきの原因となります。

セミオートストップ機能について

本機にはセミオートストップ機能があり、録音／再生時にテープが終わりまで行くと自動的に止まり、押し込まれていた操作ボタンも自動的に上がります。**ただし、早送り／巻戻しでは自動的に止まりません。そのまま放置すると故障の原因になりますので、必ず停止／取出しボタンで止めてください。**

カセットテープへの録音機能と録音する前の準備

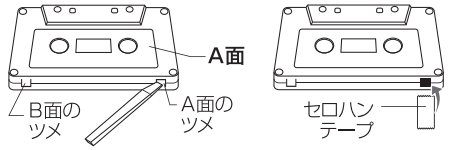
●**録音レベルは自動調節で一定に録音されますので、音量ツマミを操作しても録音に影響がありません。**
●**大切な録音をするときは、付属の電源コードのご使用をお薦めします。**

録音する前の準備

●テープがたるんでいないかどうかを事前に確かめてください。
●ツメを折ってあるテープは録音ボタンの操作ができません。無理に押したりすると故障する場合もありますのでご注意ください。
●カセットテープの両端にあるリーダーテープ部分(透明部)は録音ができません。録音前にこの部分を送っておいてください。

大切な録音を消さないために

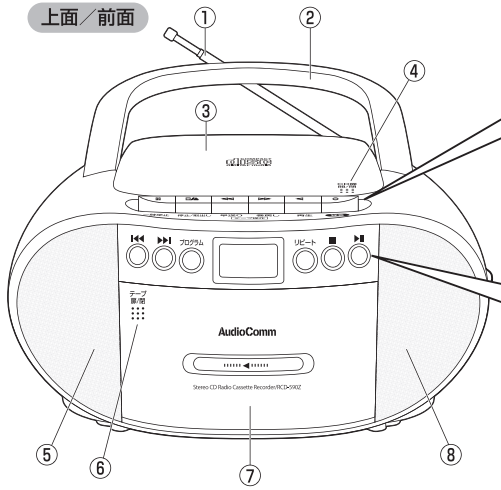
保存しておきたいテープの場合、カセットのうしろ側にある「ツメ」を折っておくと、間違って大切な録音を消去せずにすみます。再び録音したい場合は、折ったツメの部分にセロハンテープなどを貼りつけてください。

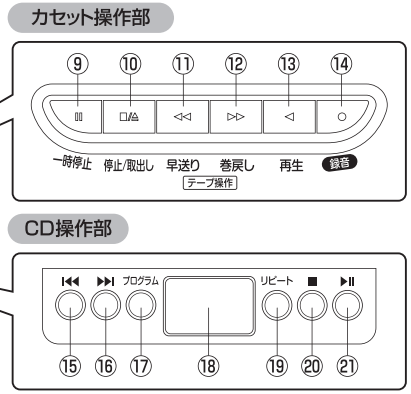


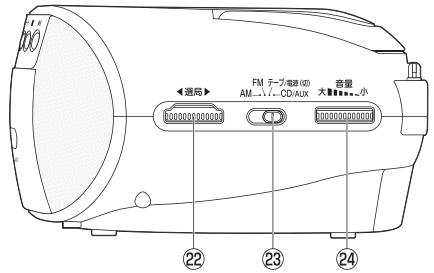
間違って消したくないときは
ツメを折る

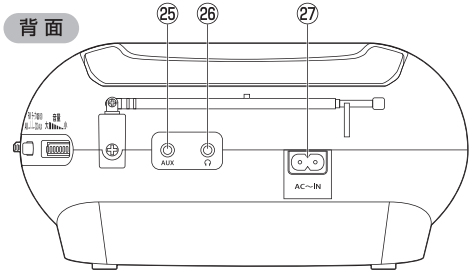
再度録音したいときは
テープで折った穴をふさぐ

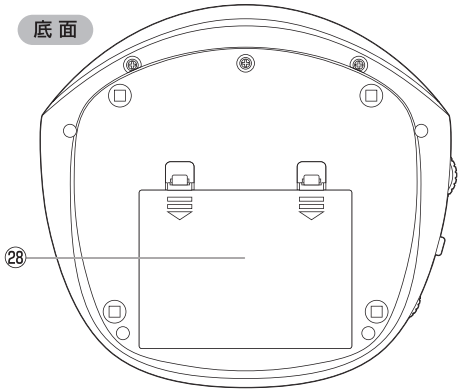
各部の名称











①FMロッドアンテナ
②キャリーハンドル
③CD扉
④CD扉開／閉部
⑤左スピーカー
⑥テープ扉／閉部
⑦テープ扉
⑧右スピーカー
⑨一時停止ボタン
⑩停止／取出しボタン
⑪早送りボタン
⑫巻戻しボタン
⑬再生ボタン
⑭録音ボタン
⑮スキップボタン(⏮)
⑯スキップボタン(⏭)
⑰プログラムボタン
⑱ディスプレイ
⑲リピートボタン
⑳停止ボタン
㉑再生／一時停止ボタン
㉒選局ダイヤル
㉓電源／ファンクション
切換スイッチ
㉔音量ダイヤル
㉕AUX(外部音声)入力端子
㉖ヘッドホン端子
㉗AC100V電源ソケット
㉘電池カバー

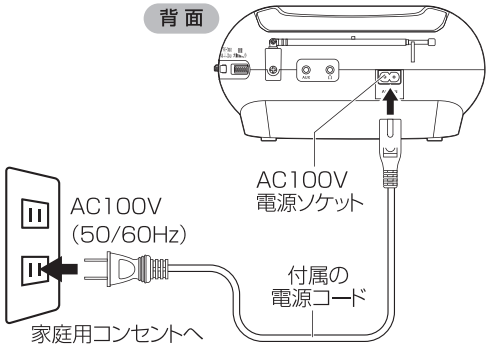
電源について

●電源プラグを抜き差ししたり、乾電池を出し入れするときは、電源が切れた状態で行なってください。
●電源を切る前に音量を最小にしてください。次に電源を入れたとき、突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

家庭用コンセントで使うには

付属の電源コードで本機のAC100V電源ソケットと家庭用コンセントを接続します。

●乾電池が入っている場合でも、電源コードを接続すると自動的にAC電源に切り替わります。
●本機を使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。

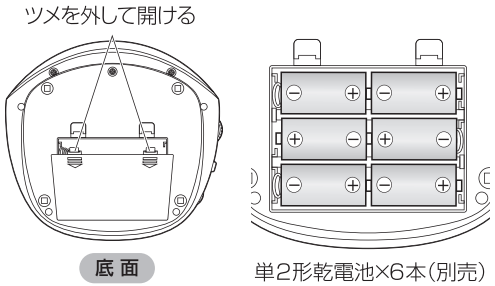


乾電池(別売)で使うには

❶ 底面の電池カバーを、ツメを外して開けます。

❷ 単2形乾電池×6本(別売)を、⊕⊖の向きに注意しながら正しく入れます(下図参照)。
●コイルバネのあるほうが⊖です。⊖側から入れてください。

❸ 電池カバーを元どおりにパチンと音がするまで閉めます。



ご注意

●付属の電源コードは本製品専用です。本製品をご使用の際には、必ず付属の電源コードをお使いください。また、付属の電源コードは絶対に他の製品には使用しないでください。製品の破損、もしくは火傷・発煙・火災の原因となる場合があります。
●乾電池で使うときは、電源コードがAC100V電源ソケットから抜かれていることをお確かめください。接続されたままですと乾電池では使用できません。
●アルカリ乾電池をお使いください。マンガン乾電池、充電式乾電池では使用可能時間が短くなります。
●乾電池が消耗すると、音量が小さくなったり、雑音が多くなったりします。このような状態になったら、乾電池を新しいものと交換してください。

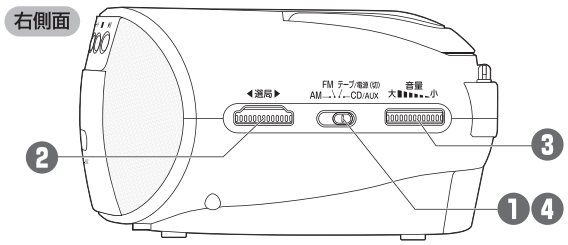
乾電池を安全にお使いいただくために

液もれ、発熱、破裂などの事故を防ぐために、以下のことをお守りください。

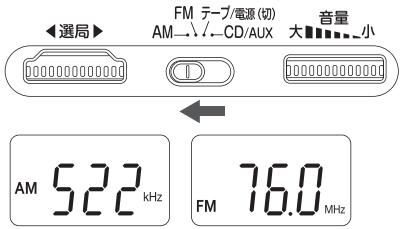
⚠ 警告	・火中への投入、加熱、分解をしない ・取り外した乾電池を幼児に触らせない ・ショートさせない ・直射日光や火などの過度の熱にさらさない
⚠ 注意	・⊕⊖の表示どおりに入れる ・指定以外の乾電池を入れない ・使用推奨期限内の乾電池を使う ・古い乾電池と新しい乾電池、マンガンとアルカリなど種類の異なる乾電池を一緒に入れない ・使い切った乾電池はすぐに取り出す ・しばらく使わないときは乾電池を取り外しておく

●万一、液もれしたら、液をよく拭き取ってください。また、液が皮膚や衣類に付着した場合はすぐに大量の水で洗い流してください。
●万一、もれた液が目に入ったときは、失明の原因となるので、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分に洗い、ただちに医師に相談してください。
●使用済みの乾電池を廃棄する場合、自治体の条例などで決まりがあるときにはそれに従って廃棄してください。

ラジオを聴く



❶ 電源／ファンクション切換スイッチをお聴きになりたいバンド(FMまたはAM)に合わせます。

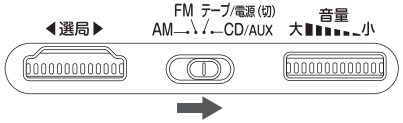


AM放送の表示例　FM放送の表示例

❷ 選局ダイヤルを回して、お聴きになりたい放送局を選びます。

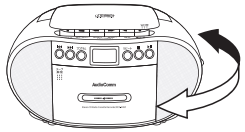
❸ 音量ダイヤルを回して、音量を調節します。
●近隣への迷惑にならないよう、音量には十分注意してください。

❹ 終了するときは、電源／ファンクション切換スイッチをテープ／電源(切)に合わせます。

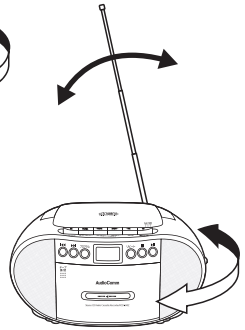


受信状態を良くするには

●AM放送の受信
本機にアンテナが内蔵されています。本機を動かして最も受信状態の良い向きを見つけてください。室内の場合、窓際のほうが良く受信できます。



●FM放送の受信
FMロッドアンテナを伸ばし、長さ、方向、角度を変えて、受信状態が最も良くなるように調節してください。



ご注意

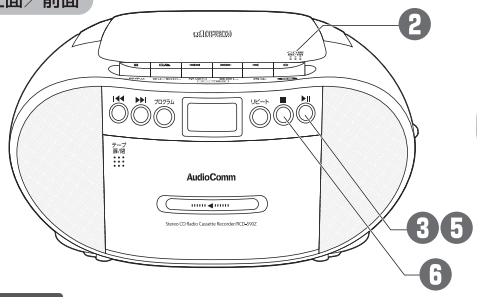
テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると、雑音が入ることがあります。また室内アンテナを使用しているテレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは本機を離してご使用ください。

FM補完放送「ワイドFM」について

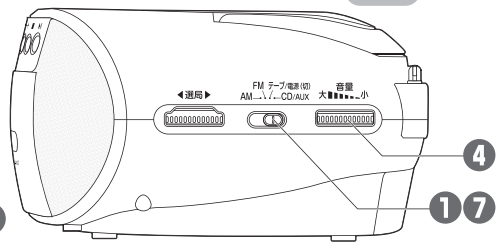
本機はFM周波数帯域が76～108MHzまであり、FM補完放送「ワイドFM」に対応しています。
FM補完放送「ワイドFM」とは、AM放送局の放送区域において難聴対策や災害対策のために新たにFM放送用に割り当てられた90.1～94.9MHz周波数帯域を用いて補完的にAM番組を放送することです。
FM補完放送「ワイドFM」の開始時期、放送局、使用周波数、聴取可能エリアなどは地域により異なります。詳細は各地域のラジオ局ホームページなどをご覧ください。

CDを聴く

上面／前面



右側面

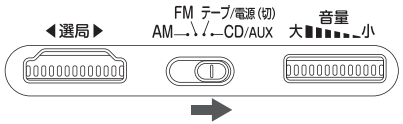


ご注意

CDを聴くときはAUX(外部音声)入力端子にφ3.5mmステレオミニプラグが接続されていないことを確認してください。接続されている状態では、CDは聴けません。

1 電源／ファンクション切換スイッチをCD ／ AUXに合わせます。

●ディスクの読み込みが始まり、しばらく「- -」が点滅した後、「no」と表示されます。



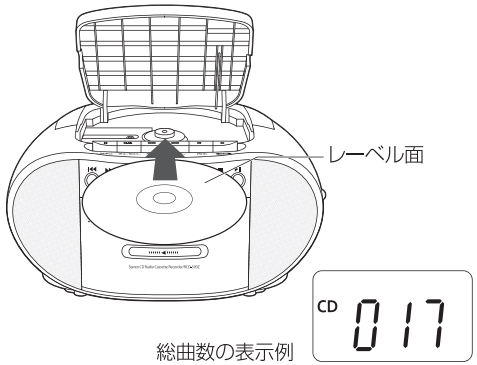
2 CD扉開／閉部を押した後、指を離し、CD扉が開いたら、ディスクを装着します。

●レーベル面を上にしてしっかりと装着してください。

●装着したら、カチッと音がするまでCD扉開／閉部を押し込んで閉めます。

●再度ディスクの読み込みが始まり、しばらくすると収録されている総曲数が表示されます。

●CD扉の開閉は丁寧に行なってください。力を入れすぎると破損するおそれがあります。



総曲数の表示例

3 再生／一時停止ボタンを押すと再生が始まります。

●再生中はPLAYマークと経過時間が表示されます)。

●曲を選んで再生するときは、スキップボタン(⏮／⏭)を押して曲番号を選んだ後、再生／一時停止ボタンを押してください。

4 音量ダイヤルを回して、音量を調節します。

●近隣への迷惑にならないよう、音量には十分注意してください。

5 再生中に再生／一時停止ボタンを押すと、再生を一時停止します。

●一時停止中はPLAYマークと経過時間表示が点滅します。

●もう一度押すと、再生が再開します。

6 再生を止めるときは、停止ボタンを押します。

●総曲数表示に戻ります。

7 終了するときは、電源／ファンクション切換スイッチをテープ／電源(切)に合わせます。

●ディスプレイ表示が消えます。

ご注意

●本機では、曲の再生が終わり次の曲に移る際に、数秒間のギャップ(無音状態)が生じます。例えばライブコンサートを収録したCDを聴いているときでも、曲間(トラック間)でギャップが生じますのでご了承ください。

●使い終わった後は、必ず本機からディスクを取り出してケースに保管してください。また、ほこりや汚れから内部を保護するため、ディスクを取り出した後はCD扉を必ず閉めてください。

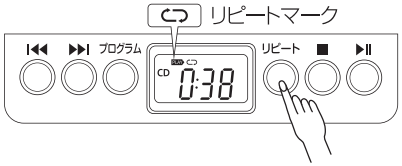
スキップボタン(⏮／⏭)について

停止中、再生中、再生中の長押しといったそれぞれの状態に応じて、機能が異なります。

ボタン	停止中に押す	再生中に押す	再生中に長押しする
⏮	ひとつ前の曲を選択	曲の頭に戻って再生。2回続けて押すと、ひとつ前の曲に戻って再生します。以降、押すごとに順次前の曲に戻って再生します。	聴いている曲を早戻し。指を離した時点から再生を再開します。
⏭	次の曲を選択	次の曲に移動して再生	聴いている曲を早送り。指を離した時点から再生を再開します。

※再生中に長押しすると、断片的に再生音が流れますので、お好みのところで指を離してください。

リピートボタン



●1曲リピート再生

・再生中にリピートボタンを1回押すと、聴いている曲を繰り返し再生します(リピートマークが点滅します)。

・再生前にリピートボタンを押した場合は、スキップボタン(⏮／⏭)で曲を選んでから再生／一時停止ボタンを押すと、その曲を繰り返し再生します。

●全曲リピート再生

・再生中、または再生前にリピートボタンを2回押すと、全曲リピートモードになり、ディスク内の全曲が繰り返し再生されます(リピートマークが点灯します)。

●ランダム再生

・再生中にリピートボタンを3回押すと、ランダム再生になります(ランダムに選ばれた曲に移動して再生が始まります。

・再生前にリピートボタンを3回押した場合は、しばらくすると自動でランダム再生が始まります。

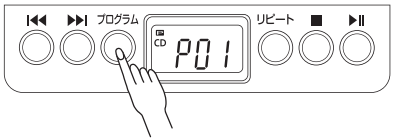
・ランダム再生中はランダムマークが点灯します。

ヒント

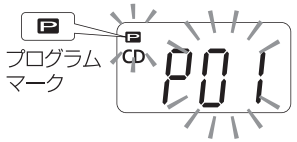
リピート再生などを解除するには、上記の各種マークが消えるまで、リピートボタンを数回押してください。

CDを聴く(つづき)

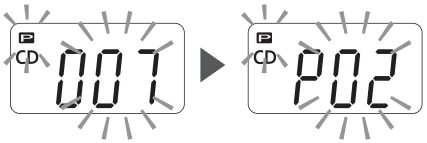
プログラム再生



❶ 再生停止中にプログラムボタンを押します。
●プログラムマークと「P01」(曲順番号)が点滅します。



❷ スキップボタン(⏮/⏭)を押して登録したい曲番号を選び、プログラムボタンを押します。
●プログラムマークと「P02」が点滅し、2番目に登録したい曲を選択できるようになります。



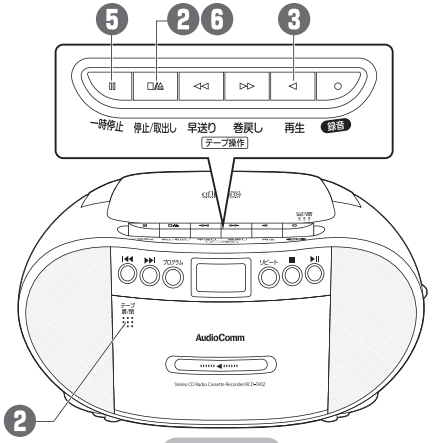
❸ ❷の操作を繰り返して、お好みのプログラムを登録します。
●最大20曲まで登録できます。

❹ 再生/一時停止ボタンを押すと、登録した順番で再生が始まります。
●プログラム再生中はプログラムマークが表示されます。

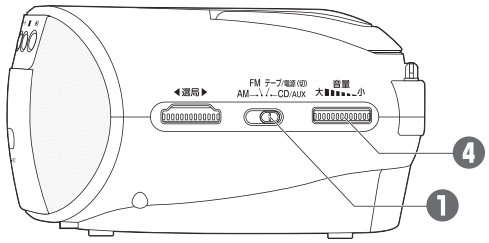
❺ 再生を止めるときは、停止ボタンを押します。
●停止ボタンを1回押した場合、再生は停止しますが登録したプログラムは残っています(プログラムマークも表示されたままです)。この状態で再生/一時停止ボタンを押すと、プログラムの最初から再生します。
●停止ボタンを2回押すと、プログラムが解除されます(プログラムマークが消えます)。

ヒント
●何も操作しない時間が約30秒間続くとプログラム登録操作がキャンセルされます。その場合は最初からやり直してください。
●停止ボタンを2回押した場合以外にも、以下のいずれかの操作をするとプログラムが解除されます。
・CD扉を開ける　・別のファンクションに移行する　・電源スイッチを切る
●プログラム再生とリピート再生を併用すると、プログラムした曲順で繰り返し再生することができます。プログラム再生中にリピートボタンを押した場合、1曲リピートと全曲リピートのみ選ぶことができます。
●プログラムを修正するには、再生前または停止中にプログラムボタンを数回押して変更したい曲順番号を選び、次にスキップボタン(⏮/⏭)を使って曲番号を変更し、最後にプログラムボタンを押して確定させてください。

カセットテープを聴く



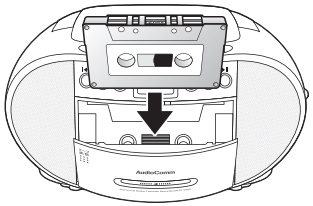
上面/前面



右側面

❶ 電源/ファンクション切換スイッチがテープ/電源(切)にあることを確認します。

❷ 停止/取出しボタンを押してテープ扉を開け、カセットテープを入れます。入れ終えたら、テープ扉/閉部を押して、テープ扉を閉めます。
●テープが見えるほうを上にし、再生面を手前にして入れます。
●テープ扉を閉めるときは、カチッと音がするまでしっかりと閉めてください。



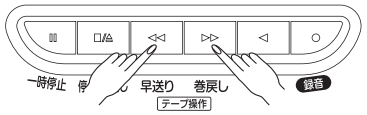
❸ 再生ボタンを押すと再生が始まります。

❹ 音量ダイヤルを回して、音量を調節します。
●近隣への迷惑にならないよう、音量には十分注意してください。

❺ 再生中に一時停止ボタンを押すと、再生を一時停止します。
●もう一度押すと、再生を再開します。

❻ 再生を終了するときは、停止/取出しボタンを押します。

早送り・巻戻しについて



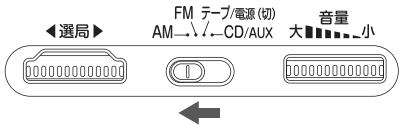
早送りボタン…テープを早送りします。
巻戻しボタン…テープを巻戻します。
※テープ動作中の早送り・巻戻し操作は、テープの巻きつきや故障の原因となります。必ず停止ボタンを押してから行なってください。

ご注意
●テープ扉の開閉は丁寧に行なってください。力を入れすぎると破損するおそれがあります。
●使い終わったら、必ず本機からカセットテープを取り出し、ケースに入れて保管してください。また、ほこりや汚れから内部を保護するため、カセットテープを取り出した後はテープ扉を必ず閉めてください。

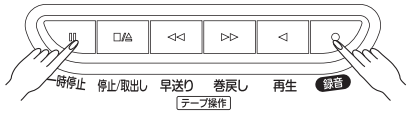
ラジオ放送をカセットテープに録音する

1 カセットテープを入れます。
●P.12を参照し、テープが見えるほうを上にし、録音面を手前にして入れます。

2 電源／ファンクション切換スイッチをFMまたはAMに合わせ、録音したい放送局を受信します。
●P.8を参照して操作してください。



3 一時停止ボタンを押した後、録音ボタンを押します＝録音待機
●録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に下がります。

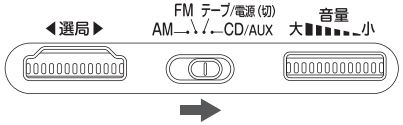


4 録音を開始したいところで一時停止ボタンを押し、一時停止を解除します＝録音開始
●ラジオ放送を聴きながら録音できます。

5 録音を一時停止したいときは、一時停止ボタンを押します。
●もう一度押すと、録音を再開します。

6 録音を終えるときは停止／取出しボタンを押します。
●ラジオの受信はそのまま続きます。

7 終了するときは電源／ファンクション切換スイッチをテープ／電源(切)に合わせます。
●ディスプレイ表示が消えます。

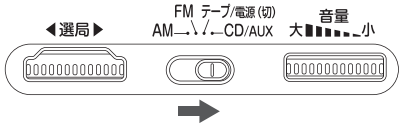


ご注意
●カセットテープが入ってない状態では、録音ボタンを押せません。
●録音中にテープが終わると、押し込まれていた録音ボタンと再生ボタンが上がり、録音が終了します(ラジオの受信はそのまま続きます)。
●録音中は電源を切らないでください。故障の原因となります。
●録音レベルは一定ですので、音量ダイヤルを操作しても録音には影響しません。
●大切な録音をするときは、途中での電池切れを防ぐため、家庭用電源での録音をお勧めします。
●使い終わった後は、必ず本機からカセットテープを取り出し、ケースに保管してください。また、ほこりや汚れから内部を保護するため、テープ扉も必ず閉めてください。

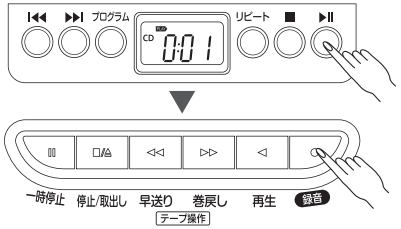
CDをカセットテープに録音する

1 カセットテープを入れます。
●P.12を参照し、テープが見えるほうを上にし、録音面を手前にして入れます。

2 電源／ファンクション切換スイッチをCD ／ AUXに合わせ、録音したいディスクを装着します。
●P.9～11を参照して操作してください。
●曲を選んで録音するときは、スキップボタン(⏮／⏭)で曲番号を選んでおきます。



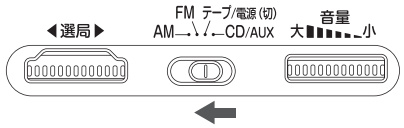
3 CDを再生させた後、すぐにカセットの録音ボタンを押します＝録音開始
●録音ボタンを押すと再生ボタンも同時に下がります。



4 録音を一時停止したいときは、一時停止ボタンを押します。
●もう一度押すと、録音を再開します。

5 録音を終えるときは停止／取出しボタンを押します。
●CDの再生はそのまま続きます。必要に応じて停止操作をしてください。

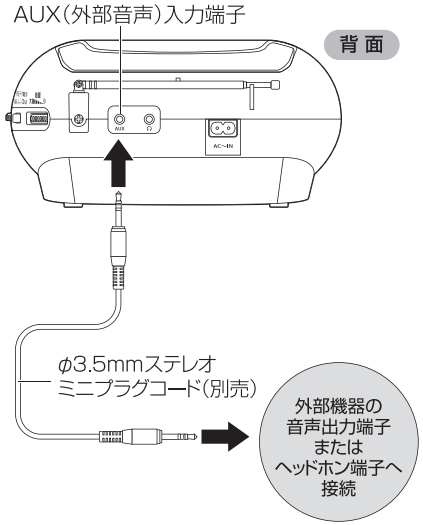
6 終了するときは電源／ファンクション切換スイッチをテープ／電源(切)に合わせます。
●ディスプレイ表示が消えます。



ご注意
●カセットテープが入ってない状態では、録音ボタンを押せません。
●録音中にテープが終わると、押し込まれていた録音ボタンと再生ボタンが上がり、録音が終了します(CDの再生はそのまま続きます)。
●録音中は電源を切らないでください。故障の原因となります。
●録音レベルは一定ですので、音量ダイヤルを操作しても録音には影響しません。
●大切な録音をするときは、途中での電池切れを防ぐため、家庭用電源での録音をお勧めします。
●使い終わった後は、必ず本機からカセットテープを取り出し、ケースに保管してください。また、ほこりや汚れから内部を保護するため、テープ扉も必ず閉めてください。

外部機器を接続しスピーカーとして使う

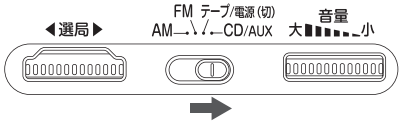
別売のφ3.5mmステレオミニプラグコードを使って、外部機器（ポータブルCDプレーヤー、MDプレーヤー、デジタルオーディオプレーヤーなど）と接続し、音楽や音声を楽しむことができます。



1 **本機及び外部機器の電源が入っている場合は電源を切ります。**

2 **φ3.5mmステレオミニプラグコード（別売）を使って、外部機器の音声出力端子またはヘッドホン端子と、本機のAUX（外部音声）入力端子を接続します。**

3 **外部機器の電源を入れ、本機の電源／ファンクション切換スイッチをCD ／ AUXに合わせます。**



4 **外部機器側で再生などの操作をします。**

●音量の調節は、本機・外部機器のどちらでも可能ですが、できるだけ本機の音量は一定に保ち、外部機器側で操作するようにしてください。本機の音量設定を大きくしすぎると、他のファンクションに移行したとき、思わぬ大音量になるおそれがあります。

5 **終了するときは双方の電源を切ります。**

●接続を解除するときは、必ず双方の機器の電源を切ってから行なってください。

外部機器の音をカセットテープに録音する

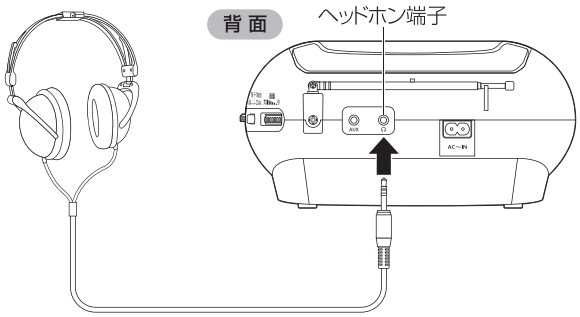
「CDをカセットテープに録音する」の操作説明で、CDの代わりに外部機器をAUX（外部音声）入力端子に接続し、同様の手順で録音操作をすると、外部機器の音をカセットテープに録音できます。この場合、外部機器側の音量調節により、録音レベルが上下しますのでご注意ください。

ヘッドホンで聴く

別売のヘッドホン（φ3.5mmステレオミニプラグ）を、ヘッドホン端子につなぎます。ヘッドホンをつなぐと、スピーカーからの音は聴こえなくなります。

ご注意

ヘッドホンをご使用の際は、本機の音量を下げた状態でヘッドホン端子に接続してください。また、使用時の音量の上げすぎにもご注意ください。聴力に悪い影響を及ぼすおそれがあります。



故障かなと思ったら

	症　状	チェック項目
全般	電源が入らない	□電源コードが本機及び家庭用コンセントにしっかりと差し込まれていますか。 □乾電池は正しく入っていますか。 □乾電池が消耗していませんか。
	音が出ない	□音量が最小になっていませんか。 □ヘッドホン端子にヘッドホンが差し込まれていませんか。
ラジオ	ラジオを受信できない	□電源／ファンクション切換スイッチはAMまたはFMが正しく選ばれていますか。
	ラジオに雑音が入る	□近くで携帯電話を使用していませんか。 □テレビや蛍光灯の近くでAM放送を受信すると雑音が入ることがあります。また、テレビの近くで本機を使用すると、テレビの画像が乱れることがあります。このようなときは本機をテレビから離してください。
CD	CDの再生が始まらない	□CDが裏返しに入っていませんか。 □CDがひどく汚れていませんか。 □規格外のディスクが入っていませんか。 □レンズがひどく汚れていませんか。 □CD扉がしっかりと閉まっていますか。 □電源／ファンクション切換スイッチは正しくCD ／ AUXが選ばれていますか。 □再生／一時停止ボタンを押して再生操作をしましたか。 □AUX（外部音声）入力端子にφ3.5mmステレオミニプラグが差し込まれていませんか。
	CDの音が出ない・音が飛ぶ	□一時停止状態になっていませんか。 □結露状態になっていませんか。 □レンズがひどく汚れていませんか。 □強い振動を与えていませんか。 □CDに大きなキズやひどい汚れはありませんか。
カセットテープ	カセットが入らない	□逆向きに入れようとしていませんか。
	テープが走行しない	□一時停止ボタンを押していませんか。
	テープが機械に巻きつく	□ピンチローラーやキャプスタンが汚れていませんか。 □テープがたるんでいませんか。 □テープ扉がきちんと閉まっていますか。
	テープ走行が不安定	□テープがたるんでいませんか。 □乾電池が消耗していませんか。
	雑音がひどい、音が震える 音飛びがする	□乾電池が消耗していませんか。 □ヘッド部が汚れていませんか。 □テープがたるんでいませんか。
	録音ボタンが押せない	□カセットが入っていますか。 □テープ扉がきちんと閉まっていますか。 □カセットの誤消去防止用ツメが折れていませんか。
	録音できない	□ヘッド部が汚れていませんか。
	前の録音が完全に消去されない	□消去ヘッドが汚れていませんか。
	テープの音が出ない	□電源／ファンクション切換スイッチが別のファンクションになっていませんか。
AUX	音声が出ない	□φ3.5mmステレオミニプラグが正しく接続されていますか。 □本機または外部機器の音量が最小になっていませんか。 □電源／ファンクション切換スイッチは正しくCD ／ AUXが選ばれていますか。
その他	ラジオは聴けるが、 CDやカセットは動かない	□乾電池の消耗がかなり進んでいます。新しい乾電池と交換してください。

お手入れのしかた

お手入れの前には、あらかじめ電源コードや乾電池を外し、誤って電源が入らないようにしてから行なってください。

本体のお手入れ

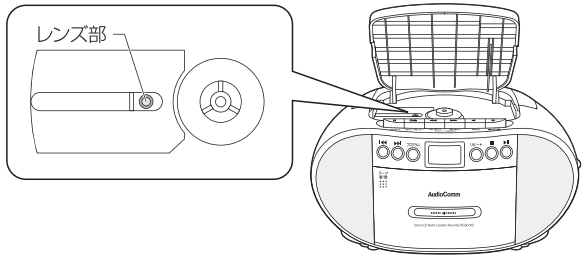
本体の汚れは、柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、布をぬるま湯か薄めた中性洗剤で湿らせ軽く拭いた後、から拭きしてください。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面の仕上げを傷めますので、絶対に使用しないでください。

シンナー、ベンジン、
アルコールなどは使用しない。

CDプレーヤー・レンズ部のお手入れ

レンズの汚れは音とびなど、再生ができなくなる原因となります。CD扉を開け、レンズについたほこりやゴミを市販のブロワーでクリーニングしてください。

※レンズ部分に布や綿棒などを当てたり、こすらないでください。故障の原因となります。



カセットのヘッド部のお手入れ

ヘッドやキャプスタン、ピンチローラーは長い間使っていると磁粉やゴミ、ほこりなどが付着して汚れてきます。汚れがひどくなると、音質が悪い、音が小さい、録音できない、前の音が消えないで残るなどの症状が出ます。定期的にヘッド部を清掃してください。

ヘッド部の清掃方法

カセットドアを開け、別売のクリーニングキッドでヘッドやピンチローラー、キャプスタンなどの汚れを拭き取ります。なお、内部についたクリーナー液が十分に乾いてからテープをセットしてください。

ヘッドの消磁を行うには市販の消磁器をお使いください。カセットタイプの消磁器をお使いになるときは、必ず再生ボタンのみを押し込んで消磁してください。詳しくはヘッド消磁器の説明書をご覧ください。

※本機の消去ヘッドはマグネットタイプになっていますので消磁しないでください。

主な仕様

全般

電源	AC100V　50／60Hz　　DC9V　単2形乾電池×6本（別売）			
定格消費電力	15W			
実用最大出力	1W×2（r.m.s）			
スピーカー	口径66mm×2（インピーダンス8Ω）			
電池持続時間	スピーカー出力時	ラジオ：約15時間	CD：約13時間	カセット：約14時間
	ヘッドホン出力時	ラジオ：約18時間	CD：約17時間	カセット：約18時間
接続端子	ヘッドホン端子：φ3.5mmステレオミニジャック			
	外部音声入力端子：φ3.5mmステレオミニジャック			
外形寸法	幅230×高さ117×奥行210mm			
質量	約1300g（乾電池含まず）			
付属品	専用電源コード、保証書付取扱説明書			

ラジオ

受信周波数	AM：522～1620kHz モノラル受信（9kHzステップ）	FM：76～108MHz ステレオ受信（0.1MHzステップ）　ワイドFM対応
アンテナ	AM：内蔵フェライトバーアンテナ	FM：ロッドアンテナ

CD

チャンネル数	2チャンネルステレオ
サンプリング周波数	44.1kHz
再生可能ディスク	CD、CD-R/RW （MP3などの圧縮形式ファイルには非対応）
S/N比	45dB

カセットテープ

トラック方式	4トラック2チャンネルステレオ
録音方式	直流バイアス
消去方式	マグネット消去
S/N比	30dB

※電池持続時間はアルカリ乾電池新品使用、音量中程度の場合の目安です。使用環境などにより異なります。
※仕様及び外観は、改良のため予告なく変更することがあります。
※本書で使用している図版は、実際の機種と一部異なっている場合があります。

保証書とアフターサービスについて

保証書について

この製品には保証書がついておりますので、お買い上げの販売店よりお受け取りください。お受け取りになった保証書は、記載内容及び「販売店、お買い上げ年月日」などの記入事項をお確かめのうえ、大切に保管してください。必要事項が記載されていない場合は、すぐにお買い上げの販売店にお申し出ください。保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービスについて

●調子が悪いときは

修理を依頼される前に、この取扱説明書をよくご覧になり正しく使われているかお調べください。それでも調子が悪いときは、お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。

●保証期間中は

保証書の記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

●保証期間が過ぎた場合は

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理させていただきます。お買い上げの販売店、または弊社修理ご相談センターにご相談ください。